

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284049

研究課題名(和文) 戦後日本におけるアジア主義の再検討

研究課題名(英文) Reexamination of the Asianism in postwar Japan

研究代表者

鈴木 将久 (SUZUKI, Masahisa)

一橋大学・大学院言語社会研究科・教授

研究者番号：00298043

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦後日本のアジア主義思想を現代的視点から再検討し、その成果をアジアの知識人と共有することを目標とした。主たる成果として以下のものがある。第一に、戦後日本のアジア主義、とくに1950年代の日本の思想が持っていた可能性を発掘することができた。第二に、戦後日本の重要な思想を中国語および韓国語に翻訳し、一部を中国において出版した。第三に、2015年にアジア各地から知識人を招いて大型国際シンポジウムを開催した。

研究成果の概要(英文)： This research aimed to reexamine the Asianism ideas in postwar Japan from a modern perspective and to share the results with Asian intellectuals. Main results are as follows. Firstly, we discovered the possibilities of the Asianism ideas in postwar Japan, especially in the 1950s. Secondly, we translated the important thoughts of postwar Japan into Chinese and Korean, and partly published in China. Thirdly, international symposium was held in 2015 inviting intellectuals from all over Asia.

研究分野：中国文学

キーワード：アジア主義 戦後日本思想

1. 研究開始当初の背景

日本にとってアジアの重要性は高まり続けているが、アジアとの関係を思想として築くことには困難があった。その原因として考えられたのは、以下の三点であった。第一にアジアにおいて現実に存在した政治的な対立に、学術も影響を受けやすかったこと。第二にアジアに関する思想が日本一国に限定された文脈で語られたため、その可能性が充分にくみ尽くせなかったこと。第三に日本のアジアに関する思想がアジアの知識人にとってどのような意味を持つのかが見逃されたこと。こうした欠点を克服し、日本のアジア主義を立体的に捉え、さらにはアジアの中における日本の位置を再考するために、本研究をたちあげた。

2. 研究の目的

研究の目的は主として二点にまとめることができた。第一に、日本のアジア主義を、戦後日本の歴史的な文脈に注意するとともに、同時代のアジア諸国の歴史的な文脈を合わせて考えて、再度読み直すことで、日本のアジア主義思想が内包した可能性を、多元的に捉えること。

第二に、第一の目的で再認識した成果を、現代アジア諸国の知識人と共有し、議論をすることで、日本のアジア主義を日本国内の思想としてではなく、アジアにおける思想として捉え直し、その現代的な意義を再認識すること。

3. 研究の方法

研究の方法は三点にまとめることができた。第一に、戦後日本のアジア主義の重要な思想を読み直す研究会およびワークショップを開いた。毎回、具体的なテーマを定め、複数の分野の専門家を招いて、十分な時間をかけて、議論を深めた。

第二に、戦後日本のアジア主義の文章を中国語および韓国語に翻訳した。翻訳の作業は、主として留学生に依頼した。この作業は、日本の重要な思想をアジアの知識人と共有するための準備であると同時に、日本に留学した学生にとって、日本の思想をアジアの文脈の中で考える機会となり、教育的効果も達成できた。

第三に、アジア各地から知識人を招いて大型シンポジウムを開催した。シンポジウムにおいて、戦後日本のアジア主義を新たな角度から考えた成果を、アジアの知識人と共有し、議論を深めた。その結果、日本のアジア主義が持つ思想的な可能性と現実的な意義を確認した。

4. 研究成果

研究会およびワークショップで得られた成果として、下記の四点がある。第一に、研究分担者である崔真碩氏の講演会を通じて、朝鮮半島の歴史と日本のアジアに関する思

想の関連性を見出すことができた。日本のアジアに関する思想が、朝鮮半島に現実と深く結びついていることが再認識できた。第二に、民衆思想史についての国際ワークショップにおいて、戦後日本における民衆思想史研究がどのようなコンテキストで生まれたかを再考し、その研究の方法を現代中国および東アジアの問題への思考といかに関係づけるかについて活発な議論を行った。日本歴史学の重要な成果である民衆思想史研究が、アジアとの関係の中で生まれたことが再認識でき、その思考が中国および現代アジアでは見逃されていること、だからこそ現在の問題を考えるときに重要な視座となることが明らかになった。第三に、日本で活躍する作家温又柔氏の講演会によって、一国の視野を超えてアジアの問題を考えることの重要性を再認識し、同時にそれが現代日本においてすでに現実となっていることが確認できた。第四に、日本の国民文学論争を同時代的な文脈から再考し、従来は文壇の中の論争と見なされていた国民文学論争が、じつは戦後日本の思想界のアジアへの応答であったことを確認した。国民文学論争に現れた日本の思想は、アジアのナショナリズムに呼応して、日本において民衆の立場から立ちあがる新しい「民族」を生み出すための実践的な運動であったこと、だからこそ文壇以外の学術界に広範な影響を与え、1950年代から60年代にかけて、歴史学や政治学など幅広い領域において多彩な思想を生み出したことを見出すことができた。

戦後日本のアジア主義に関する文章の翻訳としては、主として以下の成果があげられる。いずれも中国語と韓国語への翻訳を同時に行い、会議における資料として利用した。石母田正『歴史と民族の発見』より「序文」と「堅氷をわるもの」、竹内好「日本のアジア主義」、「プロレタリア文学」、「共通の広場」、福田歓一『デモクラシーと国民国家』より「現代の民主主義」と「日本における「国民的なもの」の形成」、金時鐘「日本語の石笛」、金石範「文化は如何に国境を越えるか」、金達寿「在日朝鮮人の文学」、宋益俊「詩の在り方をめぐって」、趙三竜「定形化された意識と詩について」、岡本恵徳「戦後沖縄の文学」、仲程昌徳「戦記作品の先駆」、屋嘉比収「銃口はどこへ向けられたか」、阿波根昌鴻「真謝の農民と陳情規定」、丸山静「民族文学への道」、遠山茂樹「二つのナショナリズムの対抗」、江口朴郎「ナショナリズムの新しい意義」、上原専祿「世界史における現代のアジア」、鶴見俊輔「国民文化論」。

以上のうち、科研主催シンポジウムで報告された論文を台湾の雑誌『人間思想(繁体字版)』第13期に発表し、国民文学論争を再考するためのアンソロジーを『人間思想(簡体字版)』第8輯に発表した。いずれも日本の重要な思想をアジアの知識人に届ける重要な成果であった。

大型シンポジウムは、平成 27 年度に、中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各地から多くの研究者を招いて、一橋大学にて一連の公開シンポジウムを開催した。東京大学名誉教授板垣雄三氏の講演会では、戦後日本歴史学を回顧するとともに、Modernity についてのまったく新しい構想を討議した。アジア青年会議では、亜際書院理事池上善彦氏、作家金石範氏、琉球大学名誉教授仲程昌徳氏、評論家太田昌国氏の四名に講演をお願いし、講演をもとにして討論を展開することで、戦後日本の国民文学、在日朝鮮人文学、沖縄文学および第三世界との連携について議論を深めた。戦後日本で展開された議論が、アジアや第三世界へのまなざしと関係していたこと、戦後直後の問題課題が戦後の過程の中で変容しながら連続していたことなどが確認された。

一連の公開シンポジウムは、日本語および韓国語の通訳をつけて行われ、海外からの参加者も積極的に議論に加わることができた。

以上の成果を通じて、日本のアジア主義を立体的に捉え、現代のアジアにおける意義を再認識するという本研究の目標は十分に達成できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 37 件)

- 1, 鈴木将久「如何形成“ 亞洲主義 ” - 試読竹内好《作為方法的亞洲》与《亞洲主義的展望》」、『人間思想 (簡体字版)』4、査読無、2016、210-228
- 2, 新城郁夫「帝国継承の彼方の沖縄へ: 武藤一羊『戦後レジームと憲法平和主義』をめぐって」、『ピープルズ・プラン』73、査読無、2016、73-83
- 3, 新城郁夫、我部聖、若林千代、黒澤亜里子「文学的想像力を通じて 岐路 を問い直す」、『けし風』91、査読無、2016、6-19
- 4, 崔真碩「影の被爆者: ヒロシマ、フクシマ、イカタ」、『現代思想』44-15、査読無、2016、157-163
- 5, 米谷匡史「療養所の詩サークルと工作者たち 大谷浩之と谷川雁」、『「サークルの時代」を読む 戦後文化運動研究への招待』、査読無、2016、211-216
- 6, 若林千代「A Portrait of War Memory: Taira Koushichi and Photography Listening to Untold Stories」、『Inter-Asia Cultural Studies: Movements』17-1、査読有、2016、91-105
- 7, 鈴木将久「日本占領下上海文化の「グレーゾーン」をどう考えるか」、『史潮』78、査読無、2015、25-43
- 8, 新城郁夫「パッシング映画のなかの高倉健: 『ブラック・レイン』覚書き」、『ユリイカ』47-2、査読無、2015、184-192
- 9, 新城郁夫「日本占領再編ツールとしての沖縄返還」、『現代思想』43-12、査読無、2015、

87-97

- 10, 我部聖「戦後沖縄短編小説史概説」、『越境広場』1、査読無、2015、185-188
- 11, 崔真碩「近代を脱する: 李箱『倦怠』論」、『社会文学』42、査読有、2015、32-47
- 12, 佐藤賢「香港の 60 年代 映画『ワイルド・プリッド』に見る文革の影」、『中国 60 年代と世界』(図書所収)、査読無、2015、4-8
- 13, 戸邊秀明「戦後思想としての「戦後」史叙述: 一九五〇年代史を焦点として」、『メトロポリタン史学』11、査読無、2015、3-24
- 14, 羽根次郎「書評 陳培豊著『日本統治と植民地漢文: 台湾における漢文の境界と想像』」、『日本台湾学会報』16、査読有、2014、142-148
- 15, 丸川哲史「ひまわり運動の歴史的経済的制約への一視座: 「反サービス貿易協定」に至る台湾内外の諸条件」、『社会運動』415、査読無、2014、26-32

〔学会発表〕(計 16 件)

- 1, 鈴木将久「“ 天下体系 ” の語境」、『東亜現実中的 “ 天下体系 ” (国際シンポジウム)、2016 年、上海
- 2, 丸川哲史「東アジアにおける “ 2015 年安保 ” の意味 “ 60 年安保 ” を参照枠として」、『人文与社会系列講座(招待講演)、2016 年、北京
- 3, 米谷匡史「日中戦争期・朝鮮知識人の「世界史の哲学」」、『国際研究集会「植民地知識人の「近代の超克論」」』、2016 年、ソウル
- 4, 米谷匡史「無名・集団の文学 工作者・谷川雁とサークル文化運動」、『日本近代文学会(招待講演)、2015 年、東京
- 5, 鈴木将久「竹内好と中国」、『東亜危機下的国家感覚と国際感覚 (国際シンポジウム)、2014 年、上海
- 6, 鈴木将久「竹内好における翻訳の問題」、『文字、言語、権力 (国際シンポジウム)、2014 年、ソウル

〔図書〕(計 12 件)

- 1, 鈴木将久編『当中国深入世界-東亜視角的「中国崛起」』、亜際書院、2016、237
- 2, 陳映真著、丸川哲史、間ふさこ訳『戒嚴令下の文学: 台湾作家・陳映真文集』、せりか書房、2016、362 (86-362)
- 3, 羅永生著、丸川哲史、羽根次郎、鈴木将久編訳『誰も知らない香港現代思想史』、共和国、2015、357
- 4, 若林千代『ジープと砂塵: 米軍占領下沖縄における政治社会と東アジア冷戦、1945-1950』、有志舎、2015、296
- 5, 丸川哲史『中国ナショナリズム: もう一つの近代をよむ』、法律文化社、2015、222
- 6, 丸川哲史『阿Qの連帯は可能か?: 来たるべき東アジア共同体のために』、せりか書房、2015、394
- 7, 新城郁夫『沖縄の傷という回路』、岩波書

店、2014、235

〔その他〕

(1) 翻訳

- 1, 「板垣雄三専号」、『人間思想（繁体字版）』
第13期、2016年8月
池上善彦「編案：為閱讀板垣雄三而作」
板垣雄三「民族與民主主義」
板垣雄三「諸文明的聯網：再激活「塔希德」
的可行性及影響」
- 2, 「專題：如何民族，怎樣現代」、『人間思想
（簡体字版）第8輯、2018年3月
池上善彦「日本国民文学論戰導讀」
竹内好「近代主義與民族問題」
丸山静「通往民族文学的道路」
石母田正「發現歷史與民族」
石母田正「擊碎堅冰」
遠山茂樹「兩種民族主義的對抗」
江口朴郎「民族主義的新意義」
上原専祿「世界史中的現代亞洲」
竹内好「共通的広場」
鶴見俊輔、竹内好「国民文化論」
竹内好「無産階級文学」
福田歎一「日本“国民要素”的傾城」
福田歎一「当代の民主主義」

(2) 国際研究集会

- 1, 板垣雄三講演会「Modernity について考
える人類的立場」、2015年8月1日、一橋大学
- 2, アジア青年会議（講演者：池上善彦、金石
範、仲程昌徳、太田昌国）2015年8月2日、
3日、一橋大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 将久 (SUZUKI, Masahisa)
一橋大学・大学院言語社会研究科・教授
研究者番号：00298043

(2) 研究分担者

丸川 哲史 (MARUKAWA, Tetsushi)
明治大学・政治経済学部・教授
研究者番号：50337903

羽根 次郎 (HANE, Jiro)
明治大学・政治経済学部・講師
研究者番号：30726261

崔 真碩 (CHOI, Jinseok)
広島大学・大学院総合科学研究科・准教授
研究者番号：50587243

若林 千代 (WAKABAYASHI, Chiyo)
沖縄大学・法経学部・教授
研究者番号：30322457

新城 郁夫 (SHINJYO, Ikuo)
琉球大学・法文学部・教授
研究者番号：10284944

我部 聖 (GABE, Satoshi)
沖縄大学・法経学部・講師
研究者番号：30635256

米谷 匡史 (YONETANI, Masahumi)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究
院・教授
研究者番号：80251312

戸邊 秀明 (TOBE, Hideaki)
東京経済大学・経済学部・准教授
研究者番号：90366998

佐藤 賢 (SATO, Ken)
明海大学・外国語学部・講師
研究者番号：50726487